
白金の錬金術師 姫君の里帰り

チルノ・トレバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白金の錬金術師 姫君の里帰り

【Nコード】

N8306Z

【作者名】

チルノ・トレバー

【あらすじ】

のんびりと、軍の高官として転生生活を送っていた私は、いきなり神の世界に呼び出される。そして私は、神の力で元の世界に黄泉帰る事に・・・ 作者は京都出身ではありません。その為、主人公の口調に違和感があるかもしれません。後、この小説には原作崩壊や独自設定が含まれます。ご注意ください。

え？黄泉帰り？（前書き）

どうも皆さんは初めまして、チルノ・トレバーです。

拙い文ですが、頑張っていくのでよろしく願います。

え？黄泉帰り？

目が覚めると、神の世界に居た。

・・・あれ？私、死んでないよね？

普通に寝てたよね？どういう事？

「おお、目が覚めたか！」

私が状況を飲み込めずに、混乱していると、聞いた事が有る声が聞こえて来る。

「・・・ゼウス、何で私が神の世界（ミコト）に居るか教えてくれない？」

私は、普通に寝ていた私が、何故ここに居るかをゼウスに聞く。

「なに、今回はお主にサプライズをな！」

「サプライズ？」

「お前さん、寝る前に『元の世界に戻りたい』と言っていただろう？その願いを叶えてやろう！」

「・・・はい？」

この神様は今何て言ったの？

「だから、お前を元の世界に戻してやろうと言ったのだ！」

「いやいや・・・言ってる事は、分かってるから。そうじゃなくて、なんでいきなりそんな事になったの？」

「いや・・・な。お前さんは、我輩がやらかしたせいで、死んでしまったからな。お前さんの望む事は、出来るだけ叶えてやりたいのだ」

「ゼウス・・・」

どうやら私は、今まで勘違いをしていたみたいだ。

ゼウスが、こんなに私の事を想ってくれるなんて・・・

「ただ・・・いづらか問題が有ってな」

「・・・え？」

「いくら吾輩でも、同じ時間軸に送る事は出来んのだ」

・・・まあ、別に同じ時間軸に送れないのは、しょうがないか。

「どれ位ずれるの？」

「最低でも、十年はずれるだろうなあ・・・」

「はああ!？」

ずれ過ぎでしょ!？

「それに、一時的とはいえ、死んだ人間を同じ世界に生き返らせるからな。世界に異常が発生するかもしれん。滞在出来る期間は、二週間程度だと思ってくれ」

二週間って・・・短いなあ。

・・・って、あれ？

「私が今居る世界の私の存在はどうなるの？」

私が居なくなったら、この世界は無くなっちゃうんじゃない・・・

「安心するがよい！お前さんが、元の世界に戻っている時間は、いくらあの世界に居ても経つ時間は、五時間程度だ！この世界は消える事は無い！」

「そうなんだ・・・でも、死人が生き返ったら、大きな騒ぎになるんじゃない？」

花開院家に妖怪扱いされた拳句、滅されるなんて、シャレにならないしね。

「記憶を多少弄って、旅に出ていた事にすれば、問題は無い。しかし！間違っても、家族に会ってはいかん！」

「どうして？」

「記憶操作は、家族には効果が無いのだ。もし、いきなり自分の娘が生き返ったらどう思う？」

「・・・分かった。家族には会わない様にする。でも、他の人には会っても良いんだよね？」

「ああ、それは問題無いぞ」

「じゃあ、地の口調に戻した方が良いよね」

私は、軽く咳払いをして、口調を変える。

「ねえゼウス、ちょいお願いが有るんや。聞いてくれへん？」

「！」

いきなつて口調が変わつたうちに、ゼウスは驚いていとるみたいや。

まあ、当然やね。

うちがこの口調でしゃべるのは、初めてさかいに。

「・・・願ひ事とは？」

「うちの姿を、生前の姿に戻せへん？」

「生前の姿にか？」

「そやよ。流石に今の姿やと、違和感有ると思うさかい。後、特典の魔法とか羽とかも外して欲しいんや。必要あらへんさかいね」

「身体能力や、錬金術はどうする？」

「元々、特典無しやておんなじ位の身体能力は有ったさかい問題あらへんよ。錬金術についても、必要無いから預かって」

「しかし、本当にいいのか？何か有ったら・・・」

「問題あらへんよ。うちにはこれが有るさかい」

そない言うて、うちは札を取り出す。

「うちは陰陽術を使えるさかい、問題があらへんよ。伊達に、花開院家当主直々におせて貰ってへんさかいね」

「せめて武器は持って行け！」

「それも、問題あらへんよ。戦う事になっても、陰陽術で十分やし、それに武器は有るさかいね」

「どこにだ？持っておらんではないか？」

「まあ見ててよ。・・・言形造形ことかたそうけい『三日月宗近』」

うちが片手で印を結びもって術を読むと、うつくし日本刀が手元に現れた。

「どない？他かて生み出せるよ？」

「いや・・・十分だ。そろそろ飛ばすが良いか？」

「ああ、そや。元の世界行ってる間は細川扇奈って名乗ってもええ？」

「ああ、構わんど。・・・では、飛ばすぞ！」

ゼウスがそない言わはった瞬間、目の前が真っ暗になる。

「楽しんでこい！」

その言葉を終いに、うちは意識を手放どした。

え？黄泉帰り？（後書き）

どうでしたか？

次は主人公設定です。更新をお待ちください。

それでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8306z/>

白金の錬金術師 姫君の里帰り

2011年12月26日12時52分発行